



ウシガエル (*L. catesbeianus*)

写真提供 : Will Starkey

ウシガエルは RSPP の中では、最大の両生類です。食欲旺盛で、昆虫、魚、他のカエル、小型の哺乳類（ネズミなど）まで捕食します。



ガーターヘビ (*T. sirtalis*)

写真提供 : Josh DiPaola

ニューヨークで目撃されることが最も多いヘビで、誤って「ガーデンズネーク」と呼ばれることもあります。主に昆虫、両生類、げっ歯類を捕食します。毒を持っていますが、有害ではありません。



トウブハコガメ (*T. carolina*)

写真提供 : Josh DiPaola

イースタンハコガメは、国際自然保護連合 (IUCN) の「存続基盤が脆弱な種」に指定されています。他の品種のカメとは違い、主に浅瀬に潜って時折体を冷やします。



ミシシippiaカミミガメ (*T. scripta*)

写真提供 : Kim Castaldo

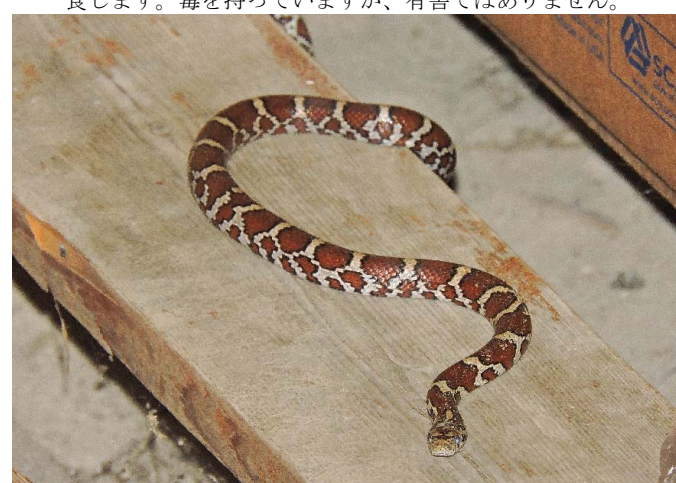
非常に色の美しいカメですが、アメリカ北東部では侵略的外来種に指定されています。目の後ろの両側に赤い斑点があり、他のカメ類とすぐに見分けることができます。



アオガエル (*L. clamitans*)

写真提供 : Josh DiPaola

アオガエルは、小型のウシガエルと間違えられることがあります。しかし、ウシガエルにはアオガエルに見られる背側隆起（カエルの背中に平行に走る棘状の隆起）がありません。パンジョーの弦を緩くかき鳴らすのに似た鳴き声を発します。



トウブミルクヘビ (*L. triangulum*)

写真提供 : Michael Baris

鮮やかな色をしています、ミルクヘビには毒はありません。アメリカ北東部では一般的な種ですが、岩や土などの下敷きに隠れて生活の大半を過ごすため、あまり見かけることはありません。



ミシシippiniオイガメ (*S. odoratus*)

写真提供 : Josh DiPaola

ミシシippiniオイガメはアメリカ北東部では一般的な種ですが、行動が予測不能なため、ほとんど目撃されることがありません。生活の大部分を、水中や密集した水生植物の中で過ごします。危険を感じると、臭腺から臭いのある分泌液を発します。



ホクベイカミツキガメ (*C. serpentina*)

写真提供 : Beth Weissman

RSPP のカメの中では最大種。さまざまな研究結果より、約 5,000 万年前に進化し、それ以来ほぼ変化していないことがわかっています。理想的な条件がそろえば、90 年以上生きるともいわれています。



アメリカアカガエル (*L. sylvaticus*)

写真提供 : Jonah Kahem

北米で最も広く分布するカエルの種です。北部地域の厳しい冬の寒さを生き抜くために進化し、体内に生物学的な「不凍液」を生成し、氷点下の温度から身を守ります。



北部水ヘビ (*N. sipedon*)

写真提供 : Josh DiPaola

湖などの淡水域でよく見られるヘビです。主に魚類、カエル、昆虫などの水生生物を餌としますが、小型の哺乳類や鳥類も捕食することがあります。



トウブニシキガメ (*T. carolina*)

写真提供 : Josh DiPaola

目の後ろの両側に黄色い斑点があり、他のカメ類とすぐに見分けることができます。この種の卵は夏に孵化しますが、孵化した後は巣で越冬し、翌年はじめて水に入るといった進化を遂げています。

謝辞 :

これらの動植物の記録は、広範囲なスチュワードシップチームの協力がなければ完成に至りませんでした。Kim Castaldo は、このパンフレットにも掲載されているトウブハコガメを発見しました。Michael Baris は、ミルクヘビを特定し、素晴らしい写真を撮影してくれました。シーズン契約のスチュワードインターン、Will Starkey と Jonah Kahem は、これらの動物のデータを収集し、生息地の保護に貢献しました。RSPP ボランティアの Beth Weissman は、2020 年夏に産卵されたカメの巣の保護に尽力しました。

ロックフェラー州立公園保護区に生息する可能性のあるその他の両生類と爬虫類

両生類

カエル：

- トリゴエアマガエル
- カワカマスガエル
- ヒョウガエル

有尾目 (サンショウウオ)：

- セアカサランダー
- ウスグロサンショウウオ
- キボシサンショウウオ
- ヨツユビサンショウウオ

爬虫類

へび：

- ネズミへび
- トウブリボンへび
- アメリカレーサー

カメ：

- モリイシガメ
- キボシイシガメ
- フチドリニシキガメ

カメ類について

カメは約 2 億 5000 万年前に進化しました。カメの甲羅は、背骨と肋骨が癒着してできたものです。カメで面白いのは、胸郭から脚が生えている唯一の動物だと言うことです。

へびについて

へびは 1 億 2500 万年ほど前にトカゲから進化したと言われていています。へびは有毒で攻撃的というイメージがありますが、実際はほとんどのへびが刺激を受けなければ比較的無害です。へびは生態系の中でも捕食者として重要な役割を果たしており、小動物や昆虫の個体数をコントロールしています。ニューヨークには多くの種類のへびが生息していますが、毒を持っているのは 3 種類だけで、比較的希少種に分類されます。

カエルについて

カエルは 3 億年ほど前に進化したと言われていています。カエルは、他の両生類と並んで、陸でも生息できるように背骨が発達した最初の生物です。皮膚から水分を吸収するなど、独自の適応能力を備えているのもカエルの特徴です。しかし、適応能力が高いため、生息する水に入ってきた汚染物質に対して非常に敏感です。

両生類と爬虫類...

現存する動物の中で、最も古い分類学的系統を持ちます。進化の過程で、他の動物とはまったく違う独自の適応能力を発達させてきました。これらの適応能力の中には、変温性または「冷血」と呼ばれる性質があります。これは、爬虫類と両生類が体内の生化学を調節するために外部の周囲温度に依存していることを意味します。そのため、不規則な温度変化に敏感で、気候変動の脅威にさらされています。幸いなことに、比較的代謝が遅く、食べ物がなくても長期間生きられるという冷血動物ならではの性質を備えています。温帯地域（四季の変化がある地域）に生息する爬虫類や両生類は、哺乳類の冬ごもりや休眠に似た「冬眠」状態に入ります。トウブニシキガメなどの種は、冬の間、総排出腔から必要な酸素を吸収しながら、凍った池や湖の下で冬眠して過ごします。アマガエルなどの種は、冬の間、血液中に「不凍液」を生成して低温に耐えながら、土の中で冬眠します。

ロックフェラー州立公園保護区の両生類と爬虫類



- 両生類と爬虫類には、ほとんどの哺乳類より前から生息しており、長い進化の歴史があります。進化の過程で、生態系の中で効率的に生存するための特殊な適応能力を身に付けたのです。残念ながら、これらの動物は気候変動、汚染、生息地の喪失に対して非常に敏感で、米国北東部では多くの種が減少しています。
- ロックフェラー州立公園保護区では、両生類と爬虫類の生息地の保護を優先しています。支援・後援の皆様には、これらの動物の生態系における重要性をご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

ここで紹介する動物はすべて、ロックフェラー州立公園保護区の白鳥の湖周辺で見ることができます。このパンフレットは、自然の生息地で実際の種を識別するための自己学習ツールとしてご利用いただけます。これらの動物は遠くから見守ってください。繊細であると同時に危険な可能性もあるので、決して触れないようにしてください。